

子育ては親育ち

わが家には、4歳の兄と3か月になる妹の2人の子どもがいます。兄の時は、妻が育児休暇を取りましたが、今回は私が育児休暇を取るようになりました。

育児休暇初日、妻を送り出すと、朝食、保育園の持ち物、着替えをセットし、準備は万端です。

ところが、お兄ちゃんが起きてくると、妻がいないことに気づき、泣き出してしまいました。なんとかだめて、着替え、朝ご飯を済ませたかと思うと、今度は妹の番です。おむつを替え、ミルクを飲ませていると、すっかり保育園へ出発する時間が過ぎていました。

その後も、洗濯、掃除、買物、次々と家事が続きます。しかし、3か月の子どもの相手をしながらでは、なかなか思うように進みません。気がつけば、あっという間に、保育園のお迎えの時間になっていました。

その次の日も、また次の日も、思うようにいかない日が繰り返されます。次第に、子どもをせかす、できないことを見つけては、しかることが多くなっていました。

そんなある日、保育園に行くと、担任の先生から、子どものことで、

「今日、お友だちとけんかをしてしまっって・・・」

と、話がありました。片付けのとき、うちの子どもが「さっさとしろよ。」と、きつく言ったことがきっかけだったようです。また、最近、イライラしていることが多いとも聞きました。それを聞いて、私はハッとしました。なぜなら、自分のことを言われている気がしたからです。そして、そのことを話すと先生は、

「お父さん、こうなさいだけでなく、自分がしようとしていることを見てあげてくださいね。」

と、話されました。私は、意図が十分に理解できないながらも、何か変えなければと思い、帰ってきました。

その日の夕方、食事の準備をしていると、妹が泣き出しました。

『ああ、今、手が離せないのに・・・』

と、思いながらミルクをつくっていると、今度は笑い声が聞こえてきました。不思議に思いながら、できたミルクを持ってのぞきに行くと、お兄ちゃんが、いないいないばあをして一生懸命あやしています。

『お兄ちゃん、こんな表情するのか。』

その時、保育園の先生の言葉がよみがえってきました。どうやら私は、子どもたちを自分のレールに乗せることに精一杯で、本当の意味で子どもたちの姿を見ていなかったようです。

「赤ちゃん、おなかすいているみたい。」

お兄ちゃん言葉でふと我に返った私が、思わず、「ありがとう」と言うと、キラキラした笑顔が返ってきました。

相変わらず、毎日、毎朝、慌ただしい日が続いています。けれど、時折、感じられる子どもの新しい姿は、私に元気をくれます。これからも親子で一緒に過ごす時間を大切に、子どもと共に成長していきたいと思えます。